

透視像

碓井静照

史上最大の詐欺事件

世界を震撼させる事件が何年かに1回おこる。1945年8月の広島、長崎への原子爆弾の投下、2001年のN.Y.、ワシントン同時多発テロ、そして今回のアメリカ、リーマン・ブラザーズ破綻に端を発した世界金融恐慌、そして驚くべき史上最大のナスダック元会長による4兆5千億円にもぼる大詐欺事件。

こんな大事件に遭遇すると、世界はこの先どうなるのか誰もが不安になり、もう立ち直れないのではないかと、お先真っ暗な気持ちになる。アフリカ・ザンビアをはじめとするエイズの蔓延、今流行しているジンバブエのコレラ、これから予想される新型インフルエンザ。どれも不安がいっぱいである。

しかし、人類の英知はいかなる自然の災害や社会的重大事件、ペストなどの感染症による大量死にもかかわらず、何年か経つと、何事もなかったかのように、社

会は流れ、人は事件を忘却の彼方へ葬り去るのである。そして破壊の後には新しい発想、環境になじんでしまつ。要するに歴史は繰り返されるのである。

それにしてもウォール街のご真ん中で白昼堂々と刃物を使わない犯行、4兆5千億円の大詐欺事件には驚いた。詐欺の被害者が大財閥、パリ、ロンドン、のブロの金融業者で、零細な個人はないという。日本でも3億円事件があつて、世間を驚かせた。迷宮入りになつた事件だが、その盗み方のスマートさは、ちょっとしたものだつた。

この昭和の事件史最大のミステリーは1968年(昭和43年)12月におきた。白ヘルメットをつけ、白バイに乗つた警官に扮した男は、刃物を見せたり脅迫したりしない方法で、現金運搬車力ローラから、まんまと大金を盗み、難なく立ち去つたのである。犯人はドラマや小説の中の犯人よりずっと賢く行動したものだ。ちなみに当時からおこり始めた小児誘拐事件の犯人の要求金額は50万円くらいだつた。

編集後記

編集部

「百年に一度」とかの科臼で、経済危機の責任を転嫁するよつな言動の政治家や経営者の姿勢に不信感が募ります。1929年10月24日の「暗黒の木曜日」はやがて世界大戦に繋がりました。今日のイラク問題、パレスチナ紛争など、人類の叡智は何処と落胆する新年です。

「チーム・バチスタの栄光」の著者、海堂尊氏がTVインタヴューで、ことしの目標に「医療再生、文芸復興」を掲げました。日本医家芸術クラブも「再生と復興」の一年にしたいものです。

恒例の年男・年女に当たる会員からのエッセイに代わり、今年はお元氣な高齢者に、今後の目標や意気込みなどを伺いました。題して「わが年頭所感」。まだまだお元氣な様子、声援を送ります。

昨年秋季に集中した各部の催し、記録をまとめました。書道も含め初のカラー化が実現。いかがでしたか。機関誌の発行間隔が広がりますが、ご支援を。()